tovo トヴォ PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 3

NO.033

あおもりの100年後、わたしたちのこれから。

2014.12.11

www.tovo2011.com

インタビュー

今号のご家族▶太田 保さん・公子さん・陽(ひなた)ちゃん・樹(いつき)くん・結(ゆい)ちゃん・成(なる)ちゃん

撮影場所▶七戸中央商店街(七戸町)

●2011年3月11日のこと、憶えていますか?

▶**保**さん「十和田市で仕事をしていました。印刷会社に勤めているのですが、停電でパソコンや機械類も止まってしまったので仕事にならず、待機していました。携帯電話でニュースを見ている方もいたので、何が起こっているかは分かりましたが、家族とは電話も繋がらず、とても心配をしていました。上司が帰ってくるのを待って、夕方6時くらいでしょうか、全員帰宅することになりました。家に帰って、玄関を開けたら、結が『怖い!』って、くっついてきたのを覚えています。」

▶**公子**さん「樹と、十和田市の病院にいました。樹が吸入器をしている時に揺れ始めて、すぐに鎮まるのかなと思いましたが、だんだん揺れが強くなり、先生方が患者さんたちを外に誘導し始めました。看護婦さんが吸入器をしている樹を守ってくれていました。停電でレジも止まったので、清算は後日ということで、家に帰ってきました。帰りの車のラジオで、だんだんと状況が把握できてきました。」

▶**樹**くん「今までで一番怖い地震でした。病院で吸入器をしていて、看護婦さんが守ってくれました。」

▶**陽**ちゃん「家にいました。でも、覚えてない。」

▶**結**ちゃん「2人でこたつの中で遊んでたんじゃなかったかな?」

●その晩は何をしていましたか?

▶**保**さん「夜は真っ暗で。キャンプ用品を使ってしのいでいましたね。もちろん、風呂も入れないし。会社の帰りに、スーパーに寄ってレトルト食品を買って帰ったんです。反射式ストーブでお湯を沸かして、それが晩御飯でしたね。」

▶**公子**さん「1番下の子、成がちょっとアトピーを持っているので、風呂に入れないとって、反射式ストーブで沸かしたお湯で、成の体だけは拭きました。」

▶**陽**ちゃん「何度も地震があって、覚えてないです。」

▶**樹**くん「カップラーメンとかで食事を済ませて、すごく大変な夜でした。」

●その後、心境や生活の変化はありましたか?

▶**保**さん「集合場所を決めました。あの日はランタンがすごく役に立ったので、ランタンのガスは常備しています。懐中電灯とかも揃えましたね。」

▶**公子**さん「保存食を詰めたり。」

▶**保**さん「あと、反射式ストーブを置くようにしています。」

▶**公子**さん「みんなで、地震があったら、ここに集まろうねって決めていて、あと、みんなのスリッパを茶の間に置いておいて、常にスリッパを履いて外に出れるようにしています。」

▶**結**ちゃん「スリッパがない時は、お父さんが抱っこして連れてってくれるんだよ。」

▶**樹**くん「学校では、教室にいる人は机の下に隠れ、廊下にいる人は、近くの教室に入って、机の下に隠れ、揺れが鎮まったら外に出るという避難訓練をしています。」

▶**保**さん「地震の時は、離れた場所で仕事をしていて、家族と連絡も取れずに心配をしましたので、いつでも家族のところに飛んで行ける場所にいたいなと思いました。なかなかうまくはいかないですけど、気持ちだけは、ずっとそばにいたいなと思います。」

▶**公子**さん「家族、子どもを持つ身として、当時のニュースはとても辛かったですね。忘れてはいけないと思っています。」

●10年後どうしているでしょう? ▶**保**さん「地震や津波、たとえ何があったとしても、家族いつも仲良く、健康でいたいです。」 ▶**公子**さん「家族が健康なことですね。」

▶**陽**ちゃん「漫画家の仕事。」 ▶**樹**くん「ねぶた師になりたいです。」 ▶**結**ちゃん「んー。ねぶた師かなぁ。」

終

定期購読のご協力をお願い致します

1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付含)/1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール(info@tovo2011.com)にてお申し込みください。

編集後記 今号でパイロット版No.000を含めて34家族目、34ヶ月目となりました。できれば最終号100号までに青森県内の全市町村のご家族を紹介できたらと考えていますが、青森県もなかなか土地が広く、時間が作れません。今回は七戸町ドラキュラフェスに伺った折に、念願だった初登場の場所、七戸町のご家族にお願いを致しました。お忙しいところ、時間を作って頂いた太田さんご家族に感謝致します。ありがとうございました。【小山田和正】

東日本大地震・津波遺児チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月〜2014年10月30日まで

¥2,801,303

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

【代表】小山田 和正【住所】〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1【web】http://tovo2011.com【mail】info@tovo2011.com【twitter】@tovo2011

033 (2014.12.11号) テキスト

今号のご家族▸
太田 保さん・公子さん・陽ちゃん・樹くん・結ちゃん・成ちゃん
撮影場所▸七戸中央商店街（七戸町）

【インタビュー】
●2011年３月11日のこと、憶えていますか？
▸保さん「十和田市で仕事をしていました。印刷会社に勤めているのですが、停電でパソコンや機械類も止まってしまったので仕事にならず、待機していました。携帯電話でニュースを見ている方もいたので、何が起こっているかは分かりましたが、家族とは電話も繋がらず、とても心配をしていました。上司が帰ってくるのを待って、夕方６時くらいでしょうか、全員帰宅することになりました。家に帰って、玄関を開けたら、結が『怖い！』って、くっついてきたのを覚えています。」
▸公子さん「樹と、十和田市の病院にいました。樹が吸入器をしている時に揺れ始めて、すぐに鎮まるのかなと思いましたが、だんだん揺れが強くなり、先生方が患者さんたちを外に誘導し始めました。看護婦さんが吸入器をしている樹を守ってくれていました。停電でレジも止まったので、清算は後日ということで、家に帰ってきました。帰りの車のラジオで、だんだんと状況が把握できてきました。」
▸樹くん「今までで一番怖い地震でした。病院で吸入器をしていて、看護婦さんが守ってくれました。」
▸陽ちゃん「家にいました。でも、覚えてない。」
▸結ちゃん「２人でこたつの中で遊んでたんじゃなかったかな？」

●その晩は何をしていましたか？
▸保さん「夜は真っ暗で。キャンプ用品を使ってしのいでいましたね。もちろん、風呂も入れないし。会社の帰りに、スーパーに寄ってレトルト食品を買って帰ったんです。反射式ストーブでお湯を沸かして、それが晩御飯でしたね。」
▸公子さん「１番下の子、成がちょっとアトピーを持っているので、風呂に入れないとって、反射式ストーブで沸かしたお湯で、成の体だけは拭きました。」
▸陽ちゃん「何度も地震があって、覚えてないです。」
▸樹くん「カップラーメンとかで食事を済ませて、すごく大変な夜でした。」

●その後、心境や生活の変化はありましたか？
▸保さん「集合場所を決めました。あの日はランタンがすごく役に立ったので、ランタンのガスは常備しています。懐中電灯とかも揃えましたね。」
▸公子さん「保存食を詰めたり。」

▶保さん「あと、反射式ストーブを置くようにしています。」
▶公子さん「みんなで、地震があったら、ここに集まろうねって決めていて、あと、みんなのスリッパを茶の間に置いておいて、常にスリッパを履いて外に出れるようにしています。」
▶結ちゃん「スリッパがない時は、お父さんが抱っこして連れてってくれるんだよ。」
▶樹くん「学校では、教室にいる人は机の下に隠れ、廊下にいる人は、近くの教室に入って、机の下に隠れ、揺れが鎮まったら外に出るという避難訓練をしています。」
▶保さん「地震の時は、離れた場所で仕事をしていて、家族と連絡も取れずに心配をしましたので、いつでも家族のところに飛んで行ける場所にいたいなと思いました。なかなかうまくはいかないですけど、気持ちだけは、ずっとそばにいたいなと思います。」
▶公子さん「家族、子どもを持つ身として、当時のニュースはとても辛かったですね。忘れてはいけないと思っています。」

●10年後どうしているでしょう？
▶保さん「地震や津波、たとえ何があったとしても、家族いつも仲良く、健康でいたいです。」
▶公子さん「家族が健康なことですね。」
▶陽ちゃん「漫画家の仕事。」
▶樹くん「ねぶた師になりたいです。」
▶結ちゃん「んー。ねぶた師かなぁ。」

【編集後記】今号でパイロット版No.000を含めて34家族目、34ヶ月目となりました。できれば最終号100号までに青森県内の全市町村のご家族を紹介できたらと考えていますが、青森県もなかなか土地が広く、時間が作れません。今回は七戸町ドラキュラフェスに伺った折に、念願だった初登場の場所、七戸町のご家族にお願いを致しました。お忙しいところ、時間を作って頂いた太田さんご家族に感謝致します。ありがとうございました。【小山田和正】

【寄付総額】
2011年6月～2014年10月30日まで、「¥2,801,303」を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。